

令和5年2月17日

学校教育自己診断の結果分析と課題について

大阪府立思斉支援学校

1. 分析（別紙結果参照）

A（よくあてはまる） B（ややあてはまる）を肯定的回答、C（あまりあてはまらない） D（あてはまらない）を否定的回答としてとらえ、教職員はA B 90%以上、C D 30%以上にマーカーし、かつ前年比で 10%以上アップした項目を□で囲んだ。同様に保護者、児童生徒はA B 90%以上、C D 20%以上にマーカーし、かつ前年比で 10%以上アップした項目を□で囲んだ。

<保護者> 回収率 72.6%（前年 84.5%）

- ・全 27 項目中 17 項目が、肯定的回答 90%以上の回答で、否定的回答が 20%を超えたのは 3 項目、概ね高評価を得た。
- ・今年度新設した感染症対策に関する項目（項目 17）が肯定的回答 92%と高く評価された。
- ・否定的回答が 20%を超えた 3 項目（項目 15・23・27）は、いずれも前年と同項目で、交流に関する項目、ホームページに関する項目は前年比で改善傾向にある。
- ・学校の施設設備、学習環境に関する項目は、依然として評価が低く継続的な課題である。

<児童生徒> 回収数 137（前年 171）※配布数に対する回収率は 100%

- ・肯定的回答 90%以上の項目は 6（全 17 項目）、否定的回答 30%以上の項目は 4、前年比で大きな差異はない。
- ・その他 7 項目についても 84%以上の肯定的回答であった。
- ・否定的回答の 4 項目（項目 8・9・15・16）は、いずれも前年と同項目で、前年比でも大きな差異はなく継続的な課題である。
- ・交流に関する項目（項目 16）は、保護者、教職員と同様に否定的回答が多いが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための制限が大きく影響した。

<教職員> 回収率 100%（前年 100%）

- ・肯定的回答 90%以上の項目が 8（全 39 項目）で、前年の 2（全 38 項目）より増加し、否定的回答 30%以上の項目が 13 から 9（うち 2 項目は新設項目）と減少した。
- ・肯定的回答においては、安全指導の徹底に関する項目（項目 13）が、ヒヤリハット報告の共有が要因となり大幅アップ、また ICT 機器の授業や公務での活用に関する項目（項目 26）が 93%と増え、それに合わせて授業や行事の計画や工夫に関する項目もアップした。
- ・否定的回答においては、学校経営計画をもとに新設した働き方改革の推進に関する項目（項目 22）、研修・研究参加後の伝達に関する項目（項目 28）が、いずれも評価が低かった。
- ・その他の否定的回答は前年と同項目（項目 7・17・18・19・29・31・35）であるが、全ての項目で、前年比で改善傾向にある。

## 2. 次年度の重点課題

◎教職員アンケート項目 28 及び 29 の結果及び学校経営計画中期的目標の「障がいの多様化に応じた教育活動ができるよう教職員の資質向上をはかる」を受け、次の2点を次年度の重点課題とする。

①研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝達する仕組みの構築

②初任者や経験の少ない教職員を育成する仕組みの構築

## 3. 改善案の検討

上記の重点課題①②について、全教職員からの提案をもとに具体的な改善策を検討し、次年度の学校運営に反映させる。